

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 8 年 5 月調査結果 - -

( 平成 1 8 年 6 月 1 日 )

調査期間：平成 1 8 年 5 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 6 商工会議所が 2 5 8 2 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 1 卸売業 2 3 3  
小売業 7 3 7 サービス業 6 1 2

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは4カ月ぶりに悪化、仕入コスト増、金利上昇懸念等不安材料あり**

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（22.3）よりマイナス幅が1.3ポイント拡大して23.6となり、4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別の業況DIは、建設、製造、サービスでマイナス幅が縮小したものの、他の2業種で拡大した。各業種から業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰、公共事業の縮小、天候不順等による景況の停滞感、購買活動に対する消費者の慎重姿勢など消費の低迷、先行き不安を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「新規受注が前年同月と比較して増加している」（建築工事）との声がある一方、「建築関係は公共工事、民間工事ともに減少しており、厳しい状況が続いている」（建築工事）、「原油高で資材の仕入コストが上昇しており、依然として厳しい状況に置かれている」（塗装工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「サッカーワールドカップの影響等によるデジタルテレビ関連の需要増加に加え、買い替え需要が発生した携帯電話関連も好調」（電子部品製造）との声がある一方、「原油価格高騰により染料などの仕入コストが上昇しており、価格転嫁もままならない」（織物製造）との声のほか、「業況は好調だが、量的緩和政策解除による金利上昇や仕入単価上昇による影響を訴える事業所が多い」（自動車・附属品製造）と、引き続き仕入コストの増加による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「自動車関連製品は堅調な荷動きを見せ、建築関係の鉄筋も都心のマンション建設向けを中心に好調」（鉱物金属材料卸売）との声がある一方、「ゴールデンウィークはある程度の売上があったが、それ以降は天候不順により売上が急激に減少した」（各種商品卸売）、「多雨による仕入減少の影響で原木の仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できず、梅雨に入ればこの状況はさらに悪化する見込み」（建築材料卸売）との声が寄せられている。

【小売業】では、「売上が好調な衣料品や住宅関連商品に続き、食料品の売上も上向き傾向に入った」（その他の小売）との声がある一方、「商店街の核であった大型店舗の閉鎖に加え、ゴールデンウィーク後の天候不順で来店者数の減少傾向に拍車がかかっている」（商店街）、「依然として消費者の財布の紐は固く、売上増加に至っていない」（商店街）との声が寄せられている。

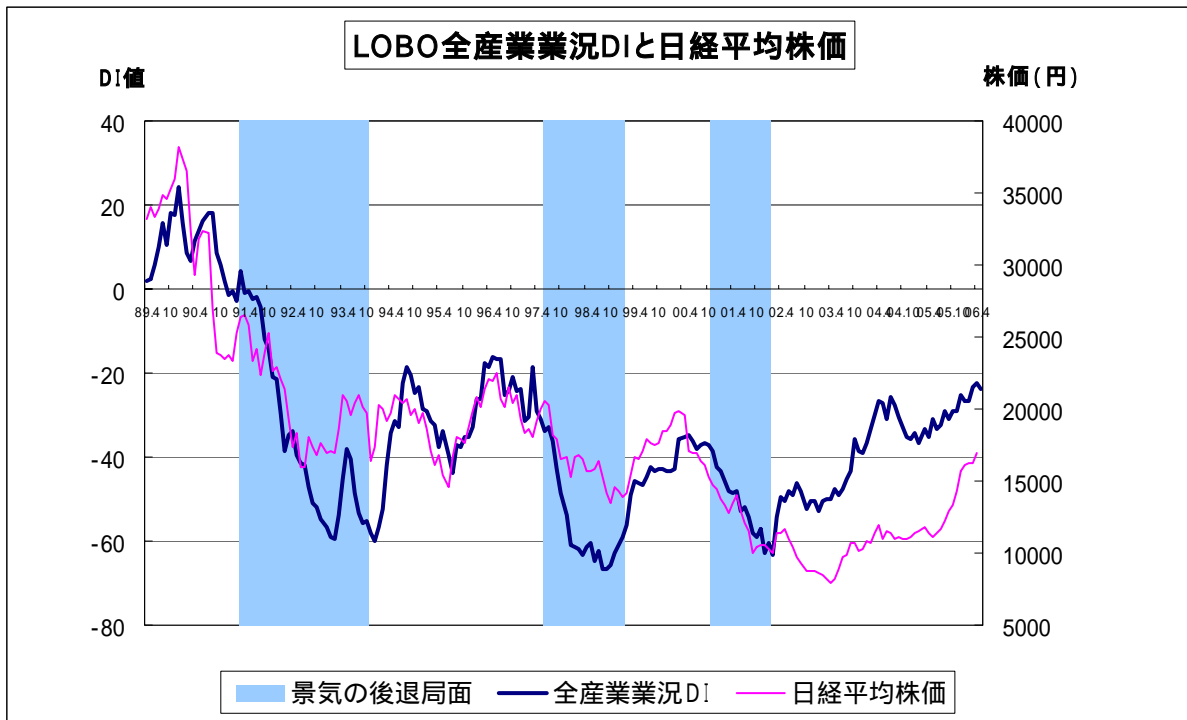
【サービス業】では、「売上増加に加えて客室単価の下落も底を打った感があり、今後も業況は好調を維持すると思われる」（旅館）との声がある一方、「原油価格の高騰で包装資材の値上がりが続いている」（洗濯）といったコメントのほか、「雨天や寒い日が多かったために来店者数が少なく、包装資材やコーヒー豆も値上がり傾向にあるため、今後の先行きを懸念している」（喫茶店）との声も聞かれる。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.2ポイント縮小して17.4となり、3カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、卸売、小売で拡大したもののサービスで縮小し、製造でマイナスからプラスに転じた。

採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.7ポイント拡大して26.6となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅はサービスで縮小したものの、他の4業種で拡大した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が18.2と、昨年同時期の先行き見通し(28.8)に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰、公共事業の縮小、天候不順等による景況の停滞感、購買活動に対する消費者の慎重姿勢など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントも見られた。



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 22.3 ）よりマイナス幅が1.3ポイント拡大して 23.6 となり、4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

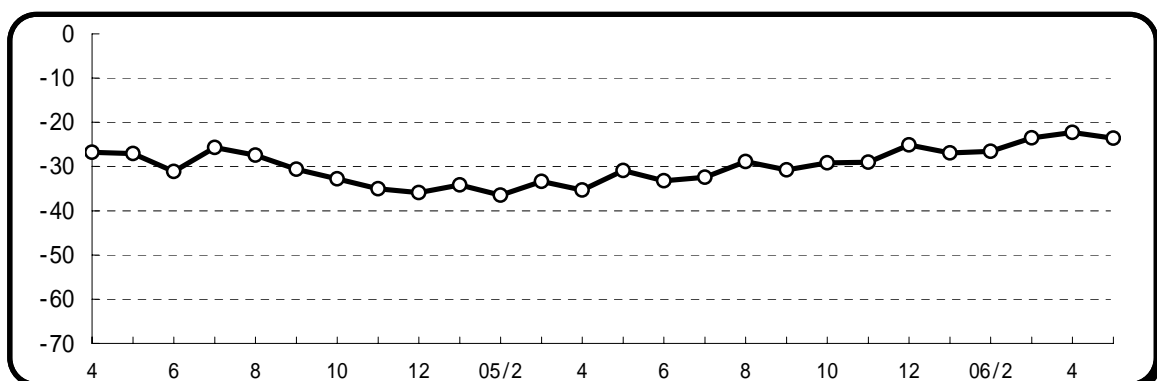
向こう3カ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 18.2 と、昨年同時期の先行き見通し（ 28.8 ）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	25.1	26.9	26.6	23.5	22.3	23.6	18.2 ( 28.8)
建設	38.1	38.3	37.3	36.4	40.7	40.0	34.1 ( 39.9)
製造	14.9	12.2	12.7	10.7	11.5	10.5	11.9 ( 23.3)
卸売	31.9	38.4	35.7	33.3	25.5	32.3	26.4 ( 26.3)
小売	23.2	25.2	26.6	21.6	18.3	22.4	13.6 ( 29.5)
サービス	27.1	32.9	30.8	27.8	26.1	24.6	17.2 ( 27.4)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年5月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

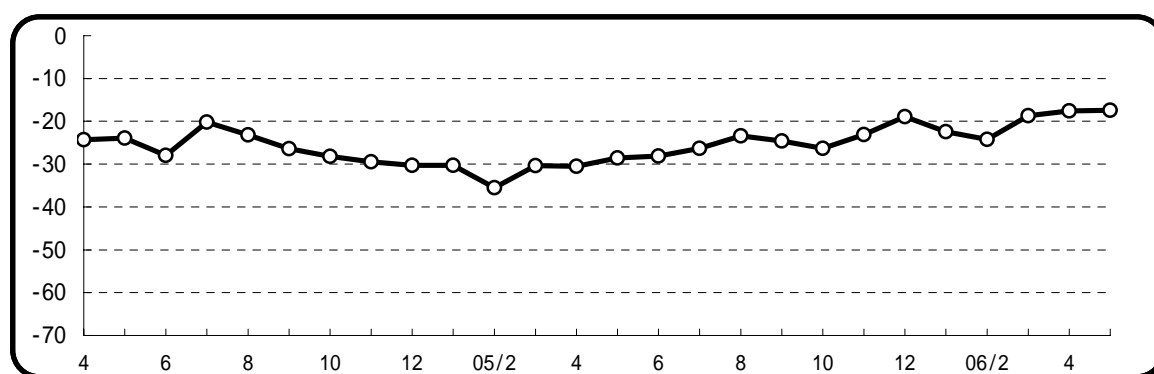
売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.2ポイント縮小して17.4となり、3カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売、小売で拡大したもののサービスで縮小し、製造でマイナスからプラスに転じた。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が13.8と、昨年同時期の先行き見通し(23.7)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	18.9	22.4	24.2	18.7	17.6	17.4	13.8 (23.7)
建設	30.8	34.6	35.7	33.3	35.8	37.0	29.6 (37.7)
製造	1.6	3.4	4.5	0.0	1.4	0.9	2.3 (12.4)
卸売	33.7	32.1	34.4	34.0	28.8	31.1	19.0 (29.3)
小売	17.7	24.7	29.3	20.6	18.8	20.8	13.6 (26.0)
サービス	25.2	28.3	27.6	21.3	17.4	14.5	13.9 (22.0)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

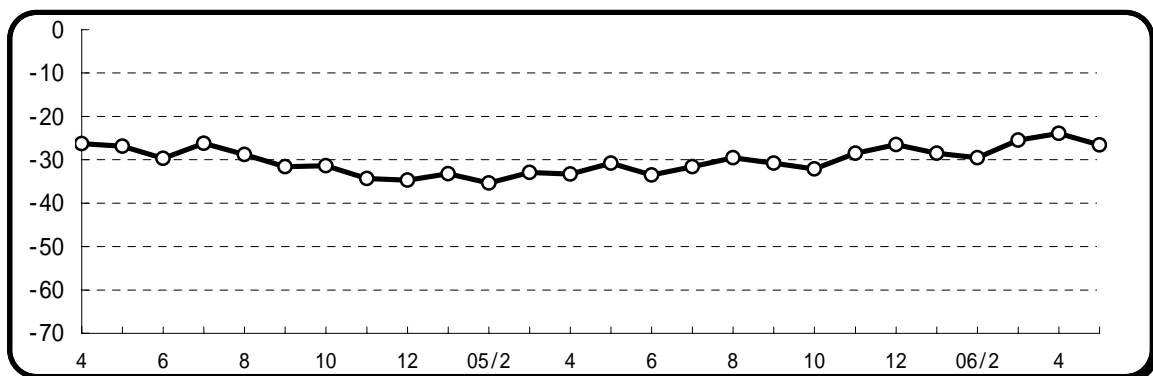
採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.7ポイント拡大して26.6となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はサービスで縮小したものの、他の4業種で拡大した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が21.6と、昨年同時期の先行き見通し(26.2)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	26.5	28.5	29.5	25.5	23.9	26.6	21.6 (26.2)
建設	43.1	45.4	43.7	41.0	41.1	45.6	37.8 (41.0)
製造	18.9	17.8	18.8	14.5	16.4	21.8	19.6 (24.0)
卸売	27.6	31.4	26.6	25.8	25.0	30.5	28.8 (20.4)
小売	22.8	23.3	28.8	23.2	17.4	21.4	14.3 (19.7)
サービス	27.9	34.0	33.6	30.0	28.5	24.1	19.3 (28.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	18.6	18.8	19.4	18.3	17.1	17.8	16.7 (19.8)
建設	31.3	31.3	32.8	31.6	30.0	32.2	33.1 (37.2)
製造	13.9	13.0	10.5	12.2	11.8	11.7	11.6 (15.5)
卸売	17.7	13.5	17.1	16.7	10.6	17.0	19.7 (12.4)
小売	15.1	15.4	18.0	14.5	12.7	15.0	14.5 (17.7)
サービス	19.1	22.8	22.8	21.6	21.6	17.9	12.6 (18.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、製造、サービスで悪化超感が弱まったものの、他の3業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で悪化超感が強まったものの、他の4業種では弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	18.5	21.8	19.6	19.6	21.7	24.5	24.0 (15.4)
建設	24.0	29.1	25.7	26.3	27.8	37.3	36.6 (23.0)
製造	35.7	32.3	34.6	33.3	39.3	38.4	32.3 (27.0)
卸売	8.0	18.2	9.1	11.9	19.4	25.0	26.4 (16.7)
小売	6.5	10.7	7.9	7.4	8.0	10.0	12.8 (5.9)
サービス	15.2	21.0	18.3	18.9	16.2	19.7	20.0 (9.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると製造で上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、全業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I ( 前年同月比 ) の推移

	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	1.6	0.7	1.2	0.7	0.6	1.7	2.4 ( 4.5)
建設	14.7	17.9	17.6	16.5	16.3	21.9	19.0 ( 19.7)
製造	0.5	2.7	1.6	1.6	1.1	2.3	2.8 ( 4.8)
卸売	4.3	3.1	1.3	1.3	3.8	3.7	1.5 ( 6.0)
小売	1.5	7.4	3.9	6.4	7.6	6.7	3.5 (0.4)
サービス	3.2	3.8	0.3	2.0	4.2	2.4	1.5 (0.8)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感に転じた。産業別にみると、卸売で過剰超感が弱まったものの、建設で過剰超感が強まり、製造で過剰超感に転じるとともに、小売、サービスで不足超感が弱まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、建設、製造、卸売で過剰超感が弱まり、他の 2 業種で不足超感が強まる見通し。



## 【平成18年5月の景気キーワード】

### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「原材料の仕入コストは依然として上昇を続けているが、業況は少し上向きになってきたのではないか」(鎌倉・塗装工事)との声のほか、「県の銘菓を新たに作ろうという動きが生まれるなど、地方にも消費者の購買意欲回復を背景にした新たな動きが見られる」(倉敷・パン・菓子製造)と消費回復への動きを指摘するコメントが寄せられている。また、「今後3カ月の先行き見通しは、夏季の観光シーズン到来を背景に冷菓・飲料水などの売上増加が期待される」(土佐清水・食料・飲料卸売)、「気温の上昇に伴い衣料品の動きが良く、ゴールデンウィークのイベントの売上も好調であった」(長野・百貨店)、「業況低迷で店をたたんだ会員もいるが、全体的に業況は少しずつ上向いているようだ」(泉大津・商店街)との声も寄せられている。さらに、「宿泊予約やレストランの個人予約が好調」(京都・旅館)とのコメントも寄せられている。

### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷と先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「業況低迷により、組合員の倒産及び廃業による脱退が激増している」(長崎・一般工事)、「年初の売上は前年同月実績を超えたが、4月以降は受注減少により前年並みに戻り、先行きは悪化する見通し」(土別・セメント・製品製造)、「原油価格の高止まり等による燃料や資材の仕入コスト上昇、ならびに今後の金利動向が先行きの懸念材料となっている」(袋井・茶・コーヒー製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「雨天の影響か、夏物衣料の受注が鈍く前年同月実績をクリアできない」(浜松・衣服・日用品卸売)と天候不順による影響を訴えるコメントのほか、「来店者数は前年同月を上回っているものの、売上高が伸びないため、依然として苦しい状況に置かれている」(盛岡・百貨店)、「郊外での相次ぐ飲食店開業による競争の激化で客数が減少しており、一段と厳しい状況に陥っている」(境港・食堂・レストラン)とのコメントが寄せられている。

### 仕入コスト上昇

また、引き続き原油・素材価格の高騰等による仕入コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「受注単価下落に加え、特に原材料の仕入コスト上昇により採算が悪化している」(米沢・建築工事)、「燃料や潤滑油の値上がりの影響が顕著になっている」(安城・自動車・附属品製造)、「需要の低迷による販売減少に加え、生地の仕入価格も上昇しており、厳しい状況に陥っている」(京都・衣服・日用品卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「ガソリン価格上昇の影響で収益が悪化する見込み」(倉吉・その他の小売)、「燃料価格の上昇分を運賃に転嫁すべく荷主と交渉中だが、苦戦を強いられている」(石岡・その他のサービス)といった声や、「燃料費の上昇に加え、野菜やコーヒー豆などの値上がりも続いており、コストは増加する一方で前向きな材料がない」(川之江・他の一般飲食店)といったコメントも寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
18年	3月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	4月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	5月	回復への動き	悪化への懸念	仕入コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上・採算D Iは2カ月連続で拡大した。「新規受注が前年同月と比較して増加している」(建築工事)との声がある一方、「建築関係は公共工事、民間工事ともに減少しており、厳しい状況が続いている」(建築工事)「原油高で資材の仕入コストが上昇しており、依然として厳しい状況に置かれている」(塗装工事)「仕入コスト上昇や公共工事の競争入札による低価格受注が今後の採算に及ぼす影響を懸念している」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続で拡大した。「輸出向け製品の受注増を背景とする設備投資が活発化している」(繊維機械製造)「サッカーワールドカップの影響等によるデジタルテレビ関連の需要増加に加え、買い替え需要が発生した携帯電話関連も好調」(電子部品製造)との声がある一方、「原油価格高騰により染料などの仕入コストが上昇しており、価格転嫁もままならない」(織物製造)、「売上は横ばいを予想するも、仕入コスト上昇や資金を調達する際の金利上昇傾向が懸念材料になっている」(金属加工機械製造)「業況は好調だが、量的緩和政策解除による金利上昇や仕入単価上昇による影響を訴える事業所が多い」(自動車・附属品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは4カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「自動車関連製品は堅調な荷動きを見せ、建築関係の鉄筋も都心のマンション建設向けを中心に好調」(鉱物金属材料卸売)との声がある一方、「ゴールデンウィークはある程度の売上があったが、それ以降は天候不順により売上が急激に減少した」(各種商品卸売)「多雨による仕入減少の影響で原木の仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できず、梅雨に入ればこの状況はさらに悪化する見込み」(建築材料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「売上が好調な衣料品や住宅関連商品に続き、食料品の売上も上向き傾向に入った」(その他の小売)「売上単価は下落傾向にあるが、来店者数は増加しており、売上も衣料品を中心に上昇傾向にある」(百貨店)との声がある一方、「商店街の核であった大型店舗の閉鎖に加え、ゴールデンウィーク後の天候不順で来店者数の減少傾向に拍車がかかっている」(商店街)「売上は前年並みで推移しているが、今後の天候次第で悪化する可能性もある」(百貨店)「依然として消費者の財布の紐は固く、売上増加に至っていない」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算・売上D Iともに4カ月連続でマイナス幅が縮小した。「売上増加に加えて客室単価の下落も底を打った感があり、今後も業況は好調を維持すると思われる」(旅館)、「売上は前年同月比で10%程度増加しており、業況は好調と考えている」(自動車整備)との声がある一方、「ゴールデンウィークの客入りも期待外れに終わり、それ以降は雨天が多いためか、業況は厳しいまま推移している」(すし店)「原油価格の高騰で包装資材の値上がりが続いている」(洗濯)「雨天や寒い日が多かったために来店者数が少なく、包装資材やコーヒー豆も値上がり傾向にあるため、今後の先行きを懸念している」(喫茶店)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、四国、九州でマイナス幅が縮小したが、他の6ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

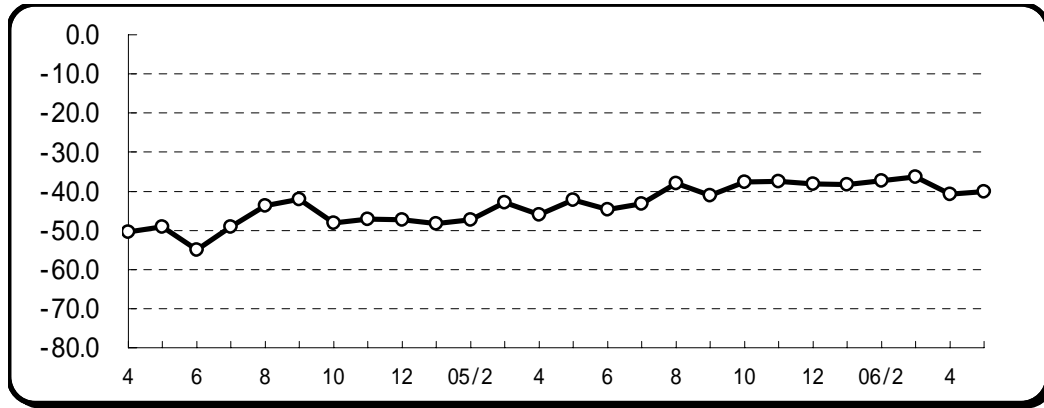
ブロック別の向こう3カ月(6月~8月)の業況の先行き見通しは、全てのブロックで昨年同時期と比べて縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

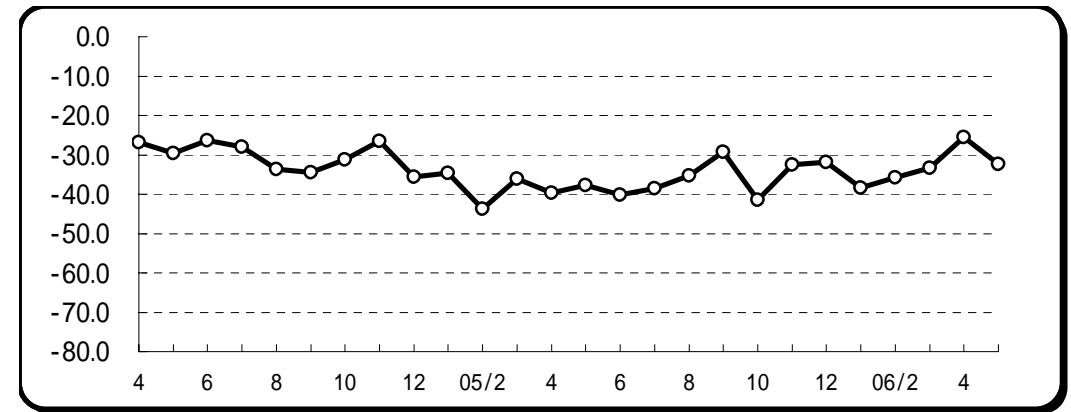
	17年 12月	18年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全 国	25.1	26.9	26.6	23.5	22.3	23.6	18.2 ( 28.8)
北海道	34.9	25.9	35.4	33.6	29.3	29.4	16.8 ( 24.5)
東 北	26.4	34.2	25.2	27.9	29.6	30.3	22.7 ( 35.1)
北陸信越	19.0	33.3	28.0	22.7	23.7	17.3	6.8 ( 24.7)
関 東	21.9	19.2	21.0	19.3	15.7	21.1	17.4 ( 25.9)
東 海	17.9	14.9	17.2	14.3	15.0	20.8	15.7 ( 22.3)
近 畿	24.7	34.5	32.2	26.5	22.1	25.4	18.5 ( 36.4)
中 国	31.8	32.6	41.4	27.0	26.5	26.9	27.6 ( 32.9)
四 国	35.2	35.4	33.3	31.0	36.7	29.0	29.7 ( 31.5)
九 州	26.5	25.0	19.2	21.0	21.1	20.2	15.3 ( 27.2)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

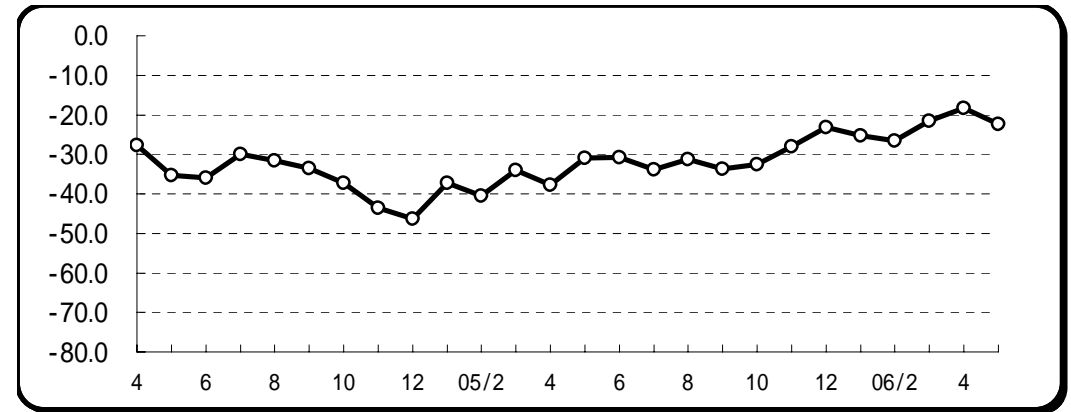
## 建設業



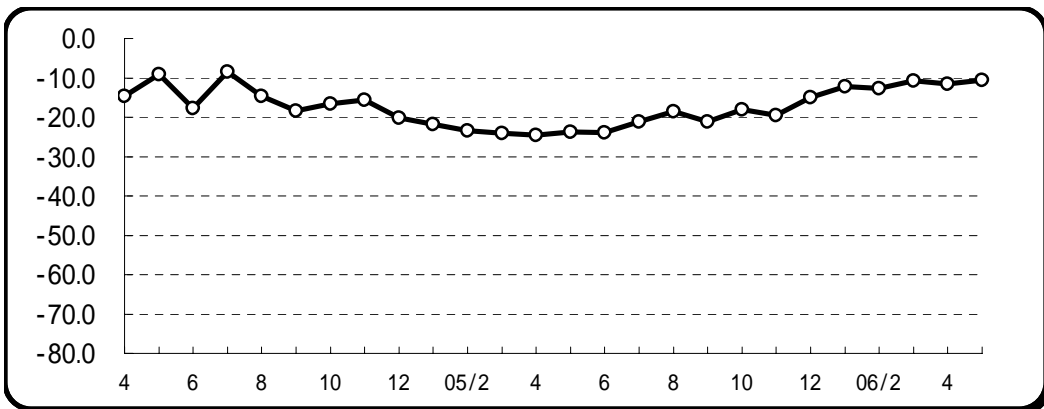
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

